

外回り看護～安全な手術のための外回り看護師の役割～

3

手術安全チェックリスト を用いた安全確認



吉川昌弥

岐阜大学医学部附属病院 手術部 副看護師長, 手術看護認定看護師

POINT

- ▶ 手術安全チェックリストは、周術期の有害事象を低減させるツールです。
- ▶ 全員が手を止め、確実に実施することが大切です。
- ▶ 手術安全チェックリストは、確認ツールであるとともにコミュニケーションツールです。

はじめに

世界保健機関(World Health Organization:WHO)は、患者安全のための取り組みの一環である「安全な手術が命を救う」というプログラムにより、世界中の手術に関連する死亡数を減少させる取り組みを行ってきました。その結果を踏まえ、世界中の外科医、麻酔科医、看護師、患者安全専門職と患者との相談を通して、患者安全に必要不可欠な10の目標を掲げました(表1)。これらの目標は、「手術安全チェックリスト」のなかに編集され、多くの国で使用されています。

「手術安全チェックリスト」は、麻酔導入前・皮膚切開前・手術室退室前に、手術にかかわるスタッフ全員で行う確認行動に活用します。患者の安全を守るための重要事項を確実に確認するとともに、スタッフ間のコミュニケーションを良好にし、チーム力を高める目的があります。

表1 患者安全に必要不可欠な10の目標

1. 正しい患者の正しい部位を手術する
2. 患者を疼痛から守りながら、麻酔薬の投与による有害事象を防ぐことが知られている方法を用いる
3. 命にかかわる気道確保困難もしくは呼吸機能喪失を認識し、適切に準備する
4. 大量出血のリスクを認識し、適切に準備する
5. 患者が重大なリスクを持っているとわかっているアレルギー、または薬剤の副作用を誘発することを避ける
6. 手術部位感染のリスクを最小にすることがわかっている方法を一貫して用いる
7. 手術創内に器具やガーゼ(スポンジ)の不注意な遺残を防ぐ
8. すべての手術標本を確保し、正確に確認する
9. 効果的にコミュニケーションを行い、手術の安全な実施のために、きわめて重要な情報を交換する
10. 病院と公衆衛生システムは、手術許容量、手術件数と転帰の日常的サーベイランスを確立する

本章では、「手術安全チェックリスト」の概要と、「手術安全チェックリスト」を活用した麻酔導入前・皮膚

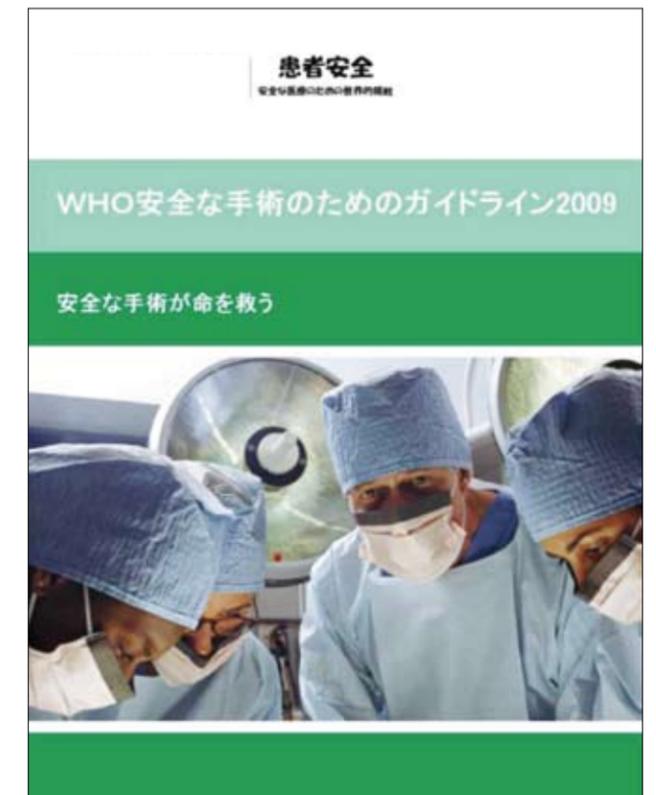
切開前・手術室退室前の各場面での安全確認についてのポイントを押さえていきます。

「手術安全チェックリスト」とは？

みなさんの施設では、「手術安全チェックリスト」を活用していますか？近年、手術に関連する学会でのシンポジウムや発表などで、その名前を聞く機会が増えてきたのではないのでしょうか。日本手術医学会が発行した『手術医療の実践ガイドライン(改訂版)』¹⁾の第2章 手術室医療安全のなかで、「手術安全チェックリスト」の使用が推奨されています。

WHOが発行した『WHO 安全な手術のためのガイドライン2009』²⁾(図1)には、「手術安全チェックリスト」の具体的な活用方法とポイントが述べられています。原文は英語ですが、新潟県立六日町病院 麻酔科 市川高夫医師により和訳され、インターネットで誰でも閲覧が可能です。各施設で「手術安全チェックリスト」の導入を検討する際にぜひ参考にすべき資料といえます。

では、「手術安全チェックリスト」をみてみましょう。WHOが作成した「手術安全チェックリスト」(図2)は、麻酔導入前「サインイン」、皮膚切開前「タイムアウト」、患者の手術室退室前「サインアウト」の3つの大きな枠組みで構成されています。WHOは「手術安全チェックリスト2009(最終版)」で、「サインイン」「タイムアウト」「サインアウト」の用語を削除しています。これは、「タイムアウト」という言葉が手術安全の代名詞として広く普及したことで、皮膚切開前確認だけでチェックが完了できるという誤解が生じたためです。当院でも「タイムアウト」の導入が先行した経緯があります。したがって、従来の「タイムアウト」を「皮膚切開前」とし、「麻酔導入前」「患者退室前」という平易な日本語で確認するフェーズを加えることが推奨されています³⁾。

図1 『WHO 安全な手術のためのガイドライン2009』(文献²⁾より転載)

2009年10月にWHOが発表した「安全な手術が命を救う」の最終ガイドラインの日本語訳です。

「手術安全チェックリスト」の各施設での活用状況は、①WHOが作成した原型を活用する、②各施設で改変したものを活用するの2つに分類されます。いずれの方法でも問題はありませんが、各施設で改変する場合には、もともとある項目は削除しないことが推奨されています³⁾。また、各フェーズは1分以内に終了できるよう、項目数を多くしないことが重要です。当院では、自施設で発生したインシデント事例を分析し、再発を防止するための確認項目を追加しています(図3)。